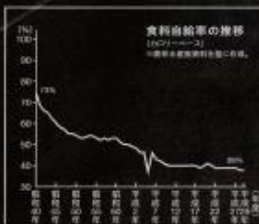
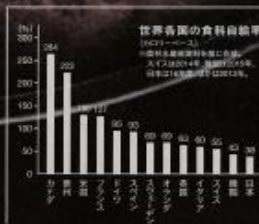


意見広告

危ないときにしか、 国産かを気にしない、 日本人。

食の問題がニュースになった時、産地を気にして国産を選んでいても、普段は産地よりも値段を重視して、安い外国産を買っていませんか。そんな日本のカロリーベースの食料自給率は、G7参加国の中で最も低い38%。実は、私たちの食生活の大半が、輸入によって支えられているのです。今後、TPP11やEUとの経済連携協定によって、今まで以上に外国産の輸入が増えれば、さらに食料自給率は下がっていきます。自給率が低くても、このまま輸入に頼ればいいと思うかもしれませんが、しかし、世界の国々では、人口の増加や異常気象などによって、近い将来、食料の需給がひっ迫していくと考えられています。どんな国でも、まずは自国のことを考えるのは当たり前のこと。また、食料が外交上の駆け引きに利用されてしまったら、私たち日本の食料安全保障は、どうになってしまうのでしょうか。国産を食べるだけ。それだけで、これらの問題を解決する第一歩になる。いつまでも、おいしい国産を食べるために。国には、よりよい政策で、農業や農村をもっと活性化させてほしい。みなさんには、普段から国産の食材をもっと選んでほしい。だって、日本には農畜産物がおいしく育つ素晴らしい環境があるのだから。私たちJAグループは、安全・安心な国産を届けつづけるために、これからも地域農業や農村の振興に全力で取り組んでいきます。



※TPP11: 環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(11ヶ国参加)